

言語聴覚学科 (Speech-Language-Hearing therapy)

ディプロマ・ポリシー (卒業までに身につけるべき能力)

- ①言語聴覚士としての職業倫理をもち、対象者やその家族と真摯に向き合うことのできる人材を育成する。
- ②言語聴覚士として必要な知識・技能を習得しようとする探究心や、自ら問題を解決しようとする積極性を育てる。
- ③科学的根拠にもとづいたリハビリテーションを提供できる人材を育成する。
- ④リハビリテーション専門職の役割を理解し、目標に向かってチームで協力し合える人材を育成する。

	講義	実習
2 学 年	到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> ①対象者やその家族と真摯に向き合うことができる。 ②自己の問題点に対し、改善に向けて努力することができる。 ③対象者に関する情報を取捨選択し、生活上の問題点とその原因について仮説を立てることができる。 ④リハビリテーション専門職種の役割を理解し、情報を共有することで対象者の問題を幅広く捉えることができる。
	専門基礎分野: [基礎医学] 専門基礎分野特論Ⅰ [臨床医学] 専門基礎分野特論Ⅱ [音声・言語・聴覚医学] 専門基礎分野特論Ⅲ [心理学] 心理測定法/専門基礎分野特論Ⅳ [言語学] 専門基礎分野特論Ⅴ [音声学] 専門基礎分野特論Ⅵ [音響学] 専門基礎分野特論Ⅶ [社会福祉教育] 社会保障制度・関係法規/専門基礎分野特論Ⅷ	[臨床実習] 実習Ⅱ (臨床実習) 【480時間】 実際に対象者についての情報収集および評価をし、対象者に即した基本的な言語聴覚療法を学びます。
1 学 年	到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> ①対象者と良好な関係を築くために必要なコミュニケーション態度・技術を身につける。 ②自己の問題点を客観的に認識できる。 ③言語聴覚士が対象とする基本的な疾患・障害について理解する。
	専門基礎分野: [基礎医学] 医学総論/生理学/病理学/解剖学 [臨床医学] 耳鼻咽喉科学/内科学/小児科学/形成外科学/臨床神経学/精神医学/リハビリテーション医学/臨床歯科医学・口腔外科学 [音声・言語・聴覚医学] 呼吸発声発語系/聴覚系/神経系 [心理学] 認知・学習心理学/生涯発達心理学/臨床心理学/心理統計法 [音声・言語学] 言語発達学/言語学/音声学/音響学/聴覚心理学 [社会福祉・教育] リハビリテーション概論 (介護福祉論含む)	◆コミュニケーション技能演習 (実習) 【40時間】 医療・福祉施設での介護や、リハビリテーション場面の見学などを行い、対象者との接し方を学びます。 ◆コミュニケーション障害演習 (実習) 【40時間】 言語聴覚士の業務の実際を学びます。

<p>専門分野:</p> <p>[言語聴覚障害学総論] 言語聴覚障害学概論／言語聴覚障害診断学 コミュニケーション技能演習／ コミュニケーション障害演習／ 言語聴覚障害学演習</p> <p>[失語高次脳機能障害学] I 概論／II 失語・高次脳機能障害／III 評価</p> <p>[言語発達障害学] I 概論／II 自閉症スペクトラム障害／ III 知的発達障害／IV 限局性学習障害／ V 脳性麻痺・小児嚥下／VI 検査・評価</p> <p>[発声発語嚥下障害学] I 概論／II 小児系発話障害／III 成人系発話障害 V 摂食嚥下障害</p> <p>[聴覚障害学] I 概論／II 成人聴覚障害／III 小児聴覚障害</p> <p>[臨床実習] 実習 I (評価実習)</p>	<p>[臨床実習]</p> <p>実習 I (評価実習) 【120 時間】 対象者の全体像ならびに生活機能と 障害のとらえ方を学びます。(対象者 に対する言語聴覚療法評価、生活機 能と障害の整理と治療計画の立案)</p>
---	--